

平成 26 年度マダイ幼魚資源調査結果

【調査日】

平成 26 年 7 月 15 日(火)・・・糸島海域

平成 26 年 7 月 16 日(水)・・・宗像・福岡粕屋海域

【調査点数】

宗像海域・・・・・・・・・・6 点

福岡・粕屋地区海域・・・・16 点(新宮地先 8 点、奈多地先 8 点)

糸島海域・・・・・・・・・・12 点(湾口 6 点、湾内 6 点)

【調査内容】

一艘ごち網（目合い 18 ～ 20 節）で 1 回の操業で採取されるジャミ（マダイ幼魚）、キス等について、分布状況および体長測定を実施しました。

【調査結果】

1. ジャミの分布

表 1 各海域のジャミ入網数

海域名	平均入網数	最大入網数	最小入網数	前年比	平年比
宗像海域	107 尾	470 尾	0 尾	21 %	29 %
福岡粕屋海域	83 尾	257 尾	0 尾	22 %	22 %
糸島海域	100 尾	410 尾	5 尾	385 %	53 %
筑前海平均	94 尾	470 尾	0 尾	34 %	31 %

海域別では宗像海域、次いで糸島海域で多く、福岡粕屋海域では少ない傾向がありました。ただし、福岡粕屋海域の調査では荒天のために昨年度 1000 尾以上のジャミが採取された沿岸部の調査点が欠測になったことが大きく影響したと考えられます。

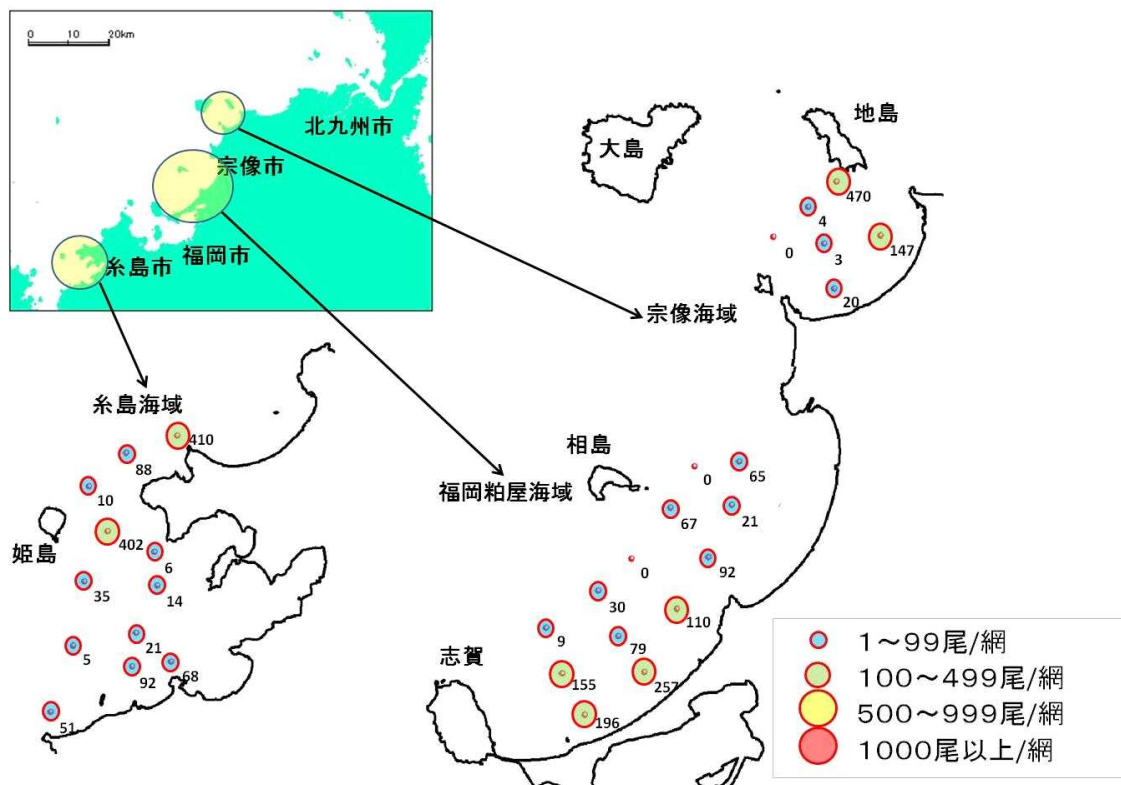


図1 平成26年度ジャミ調査結果

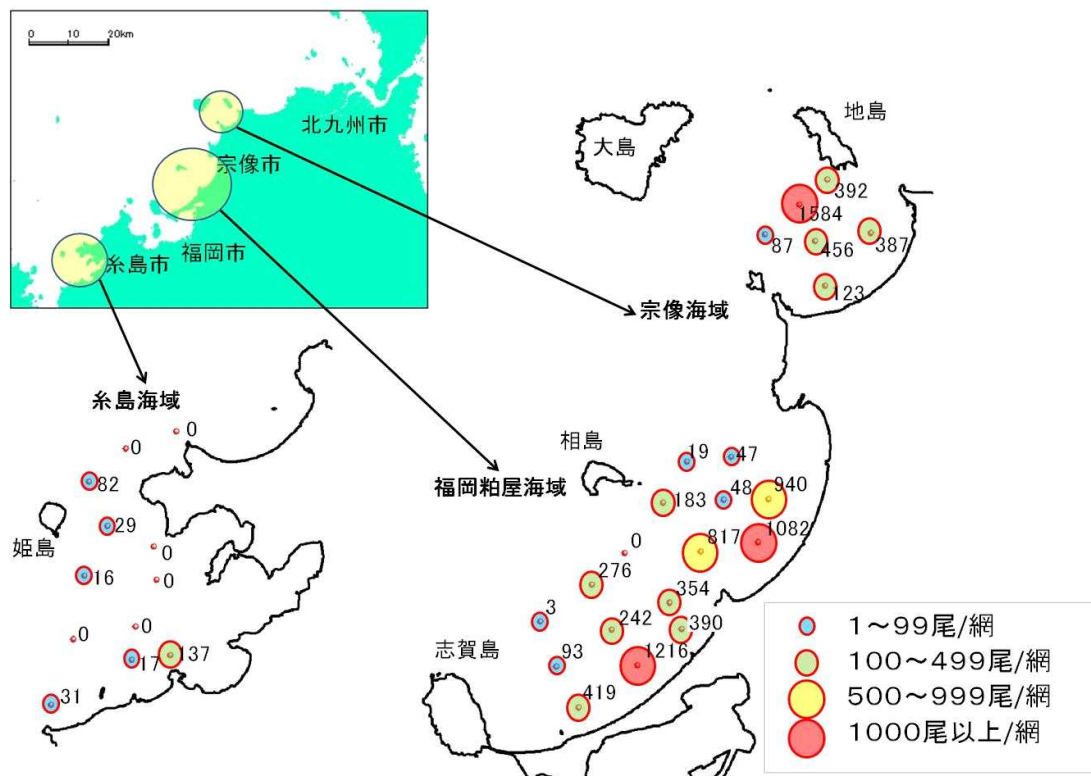


図2 昨年度のジャミ調査結果

2. 入網数の年変動

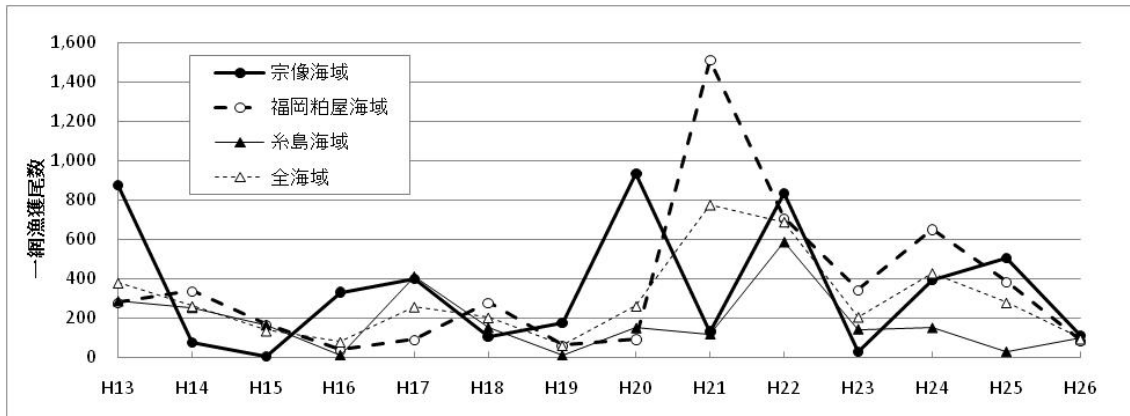


図3 近年の入網数の推移

26年度のジャミの入網数は糸島海域では前年を上回りましたが、宗像海域、福岡粕屋海域では前年を下回っていました。また全海域の平均でも前年の3分の1と大きく減少しました。

3. 体長

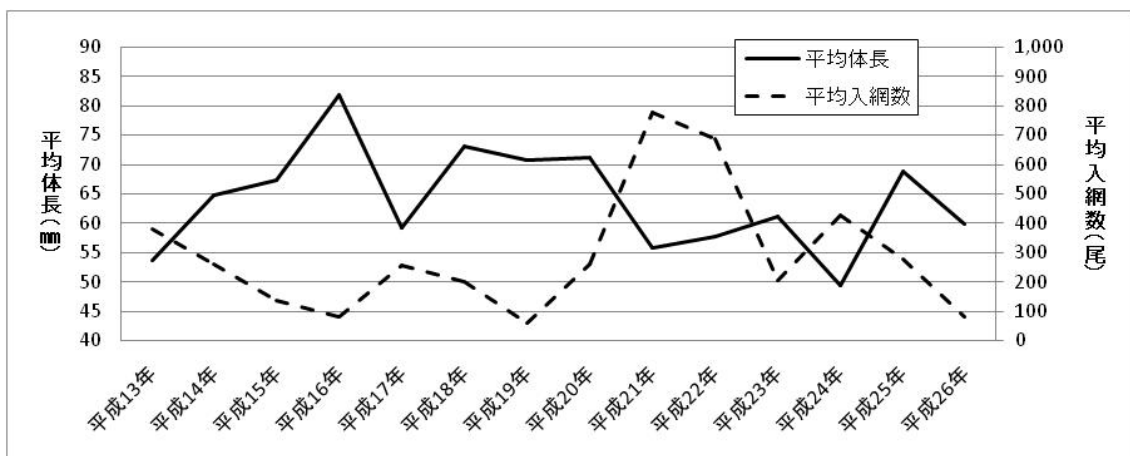


図4 近年の平均体長と平均入網数の推移

26年度のジャミの平均体長は60.0 mmとなり、昨年の68.7 mmを下回りました。海域別に見ると福岡粕屋海域で62.1 mmと最も大きく、糸島海域で57.7 mmと最も小さくなっていました。

4. 今後の見通し

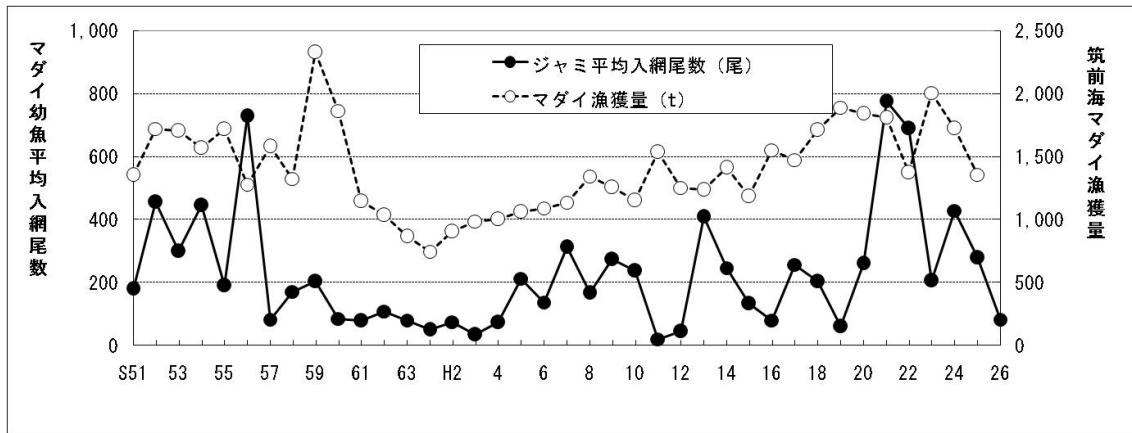


図5 ジャミの数とマダイ漁獲量の推移

最後に、ジャミ調査の結果とマダイ漁獲量の関係について説明します。

ジャミはおよそ2年ないし、3年後には漁獲対象となります。そのため、ジャミが多く獲れた年の2～3年後にはマダイの漁獲量が多くなる傾向があります。

26年度にはジャミ発生量の多かった24年級群が漁獲対象として加入しますので、漁獲量は昨年度よりも増加すると考えられます。また25年級群も平年の140%の水準だったことから、27年度も漁獲量は高位で安定すると見込まれます。しかし、26年級群が加入する28年度にはやや漁獲量が減少することが懸念されます。

ただ、マダイは漁獲対象になる期間が2～10才以上と他の魚に比べて非常に長いため、28年度以降も24、25年級群が漁獲され、急激な漁獲量の減少は起こりにくいと思われます。

参考 本年度と昨年度のキス分布状況

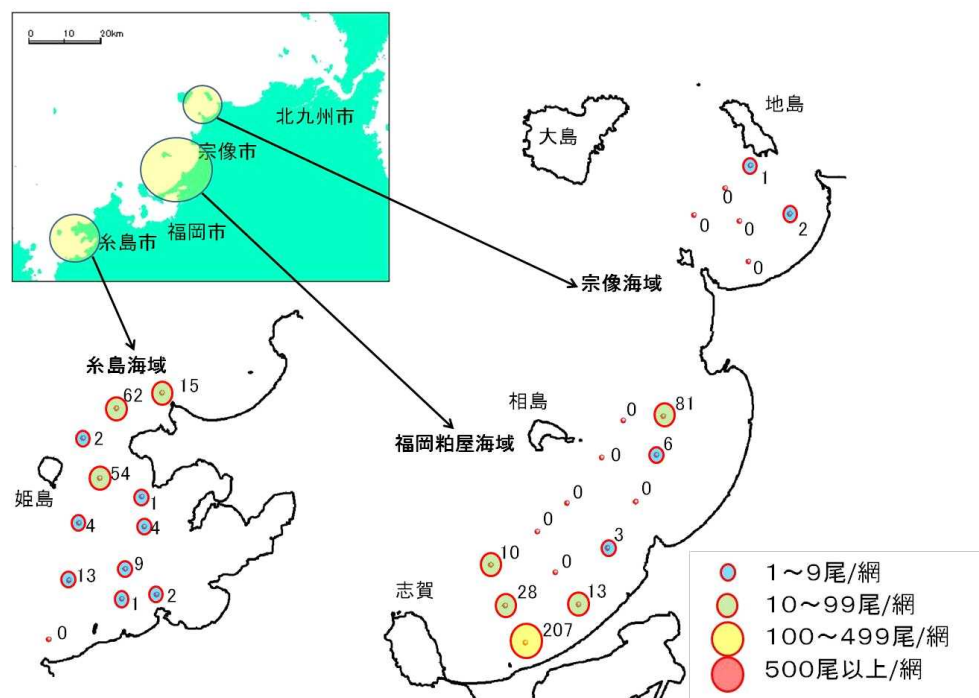


図6 平成26年度 シロギスの入網量

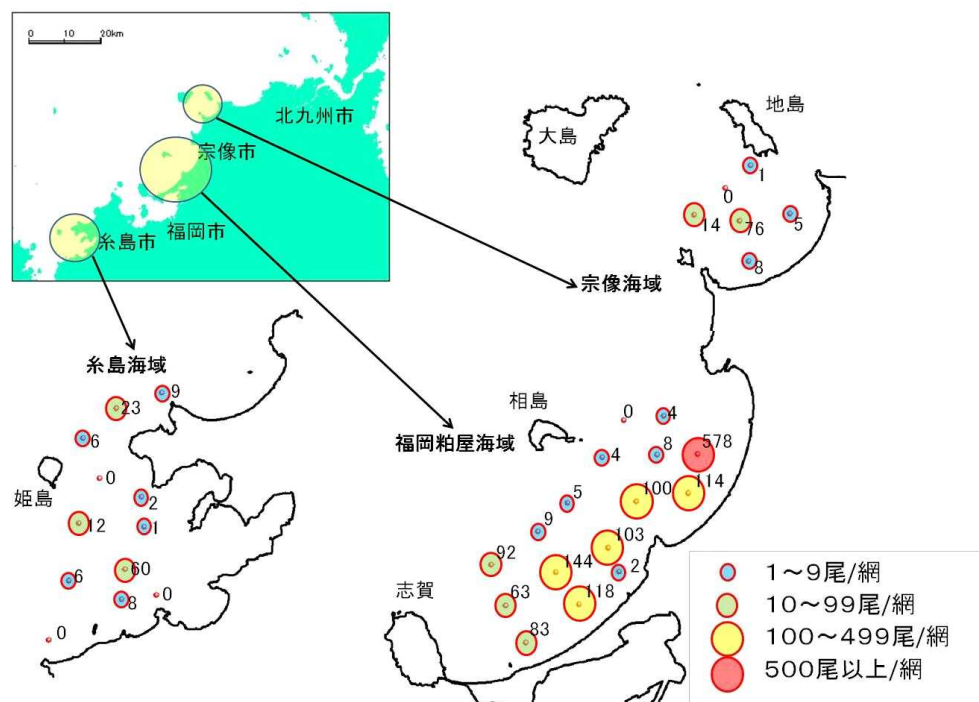


図7 平成25年度 シロギスの入網量

25 年度に比べ、26 年度は糸島海域ではシロギスの入網量がわずかに増加しましたが、宗像海域、福岡粕屋海域では大きく減少しました。